

議 長		副 議 長		局 長		補 佐		係 長		係 員	
--------	--	-------------	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------	--

令和8年3月30日

多賀城市議会議長殿

会派等名 公明党多賀城市議団  
 代表者名 根本 朝栄



### 調査研究報告書

このことについて、下記のとおり実施したので、概要を報告します。

記

#### 1 報告者（参加者）

- (1) 代表 根本 朝栄
- (2) 阿部 正幸
- (3) 齋藤 裕子



#### 2 調査研究の概要

- 調査期間： 令和8年3月23日（月）～令和8年3月24日（火）
- 視察目的： 東京都文京区、国分寺市の行政視察
- 調査手法： 視察調査
- 行程又は日程： 添付行程表のとおり
- 視察先及び調査事項

調査日時	調査先	調査事項及び現地視察の有無
3月23日（月） 13:30～15:00	東京都文京区議会	文京区青少年プラザbーラボ現地視察
3月24日（火） 09:30～11:00	東京都国分寺市議会	国分寺市重層的支援体制整備事業

- 調査資料： 添付調査先作成資料のとおり

#### 3 調査の概要

1. 文京区青少年プラザbーラボの取り組みについて



文京区青少年プラザ b-lab (ビーラボ) は、東京都文京区が設置した青少年向けの公共施設です。中高生世代が主体的に活動し、学び、交流することを目的として運営されています。2015年4月に開設され「中高生の秘密基地」というコンセプトで運営されており、区内外の若者支援のモデルケースとして注目されています。

## 施設の主な特徴

所在地：東京都文京区春日2丁目9-5 文京区教育センター内に設置

開設年：2015年

対象：文京区内在住、在学、在勤の中高生（登録制）無料

運営形態：文京区直営、NPO法人カタリバが運営

愛称：「b-lab (ビーラボ)」 = 「Bunkyo+laboratory」 中高生が将来への可能性を研究・実験する場所という意味が込められ、愛称は区内の中高生の公募により決定

施設内にはスタジオ、学習スペース、交流スペース、キッチン、音楽・映像機材など創作活動が可能な設備などが整備され、自由な創作・表現活動を支援する環境が整っている。スタッフや大学生ボランティアが常駐し、相談やイベント企画のサポートを行う。中高生世代を主な対象とした居場所施設であり、青少年が自由に過ごしながらか主体的に活動できる環境を提供している。

## 設立の背景

文京区においては、従来の青少年施策が「指導型・管理型」に偏りがちであったことから、近年の社会環境の変化（不登校、居場所の不足、若者の孤立等）を踏まえ、青少年の主体性を尊重した新たな居場所づくりが求められていた。

1. 青少年が自由に過ごせる空間の確保。2. 自主的な活動や挑戦を支援する仕組みの導入。3. 多様な背景を持つ若者を受け入れる包摂的な環境整備。などを目的として、従来の施設機能を見直し新しいコンセプトの青少年施設として b-lab が整備された。

## 活動内容

若者自身が企画するイベントやプロジェクトが中心で、音楽ライブ、ボランティア活動、勉強会、トークイベントなどが定期的に行われる。特に「b-lab アクション」と呼ばれる自主企画制度により、地域や社会とつながる実践的な活動が推進されている。

また、スタッフは利用者の自主性を尊重しつつ、必要に応じたサポートを行う「伴走型支援」を特徴としている。

### (1) 居場所機能の提供

中高生が安心して過ごせる空間を提供し、学校や家庭以外の「第三の居場所」としての機能を担っている。

### (2) 自主活動の支援

利用者自身が企画・運営するイベントやプロジェクトを支援し、主体性の育成を図っている。利用者がイベントやプロジェクトを自ら企画・実施し、スタッフが助言・調整を行い、主体性の育成を図っている。

### (3) 伴走型支援の実施

職員が利用者に寄り添いながら必要に応じた助言・調整を行う支援体制を構築している。多様な体験機会の創出として音楽アート、学習支援など幅広い活動を可能とし、他者との交流を通じた社会性の醸成を図っている。

## 職員の役割

従来の「管理・指導」中心ではなく、以下の役割を重視した取り組み。

1. 利用者との関係構築（対話・見守り）
2. 自主企画活動の支援・調整
3. 居場所としての安全確保

## 今後の課題と検討事項

1. 利用者の増加に伴うスペースや人員体制の確保
2. 自主性を尊重しつつも、安全管理のバランス
3. 地域や学校とのさらなる連携強化の必要性

以上の課題解決に向けて取り組んでいくと共に、文京区内に類似の施設の検討がされているとのことでした。

## 2. 国分寺市 重層的支援体制整備事業について

近年、少子高齢化や家族形態の変化、社会的孤立の増加などにより、従来の制度別支援では対応が困難な「複合的課題」を抱える世帯が増加しています。こうした状況を踏まえ、包括的な支援体制の構築が全国的に求められています。

本視察では、先進的に「重層的支援体制整備事業」に取り組んでいる国分寺市の事例を学び、本市における今後の施策展開の参考とすることを目的としました。

## 2. 事業の概要

重層的支援体制整備事業は、厚生労働省が推進する制度であり、以下の3つの支援を一体的に実施することが特徴である。

1. 相談支援（属性を問わない包括的相談）
2. 参加支援（社会とのつながりの創出）
3. 地域づくり支援（地域における支え合い体制の構築）

国分寺市では、これらを統合的に運用し、分野横断型の支援体制を構築している。

## 取組内容

### (1) 包括的相談支援体制の構築

従来の高齢、障害、子ども、生活困窮といった分野別の窓口を超えた「断らない相談支援」を実施。相談内容に応じて関係部署や専門機関が連携し、ワンストップで対応する仕組みが整備。

### (2) 多機関連携による支援

庁内各課に加え、社会福祉協議会や地域包括支援センターなどと密接に連携し、ケース会議を通じて支援方針を共有。

特に複合課題を抱える世帯に対しては、分野横断的なチーム支援が行われている点が特徴的である。

### (3) 参加支援の充実

ひきこもりや社会的孤立状態にある人に対し、段階的な社会参加の機会を提供。

地域活動や居場所づくりを通じて、本人の自己肯定感の向上と社会的つながりの回復を図っている。

### (4) 地域づくりの推進

地域住民やボランティア、NPO等と協働し、支え合いの地域づくりを進めている。空き家を活用した市民団体や、住民の活動により居場所や、イベントの取り組みを開催。

制度による支援だけでなく、インフォーマルな支援資源の活用が重視されている。

## 取り組みの要点

### 1. 地域福祉計画と一体化を確立

国分寺市は重層的支援体制整備事業を地域福祉計画の本体に組み込み、関連4計画（成年後見・自殺対策・再犯防止等）も包含して策定。これにより、部署や年度が変わっても事業の位置づけとKPIがぶれない取り組みになっている。

既存事業を再編集してコストを最小化しました。

介護・障害・子育て・生活困窮など既存事業を横断で整理し、多機関協働のパッケージに。新規予算を取らず今ある制度を組み合わせて足りない部分を補充している。

「丸っとふくまど」で「断らない相談体制」キャラクターを専門学生が作成し相談しやすい環境整備を図る

毎週水曜、市役所2階に開設「福祉の総合相談窓口「丸っとふくまど」では、属性や世代を問わず相談を受け止め、関係機関につながります。「まず聞いてもらえたこと」が利用者満足に直結している。

支援会議で庁内外の調整を図る

案件が複雑化した場合は、相談支援総合調整会議（複数部局と社協）を開催。決定事項のフォローまでワンストップで行うため、“たらい回し時間”が大幅短縮している。

縦割りから横の連携へ 職員意識の転換

重層的支援は「制度を動かす前に職員のマインドを変える改革」という位置づけ。窓口対応を拒否型から受容型へ転換するため、接遇研修や評価指標に“受理率”を盛り込んでいるとのこと。

地域福祉コーディネーターが伴走

市社協に委託された地域福祉コーディネーター選任3名体制で、アウトリーチと窓口対応を担う。

行政の在り方改革

重層的支援体制は「相談→連携→地域づくり」を一体で回す仕組み。福祉事業だけではなく行政の在り方を改革した取り組みとのこと。庁内の枠を超え「市民の困りごと」に取り組んでいます。

#### 4. 所感

1. 文京区青少年プラザ b-lab は、青少年の自主性と多様性を尊重した先進的な施設であり、今後の青少年施策を検討する上で非常に参考となる事例でありました。特に「居場所」と「挑戦する機会」が実現される点は、他地域においても導入価値が高いと感じました。

1. 青少年の主体性を尊重する運営により、自発的な活動が活発に行われている点
2. 対話を重視した関係構築により、安心して利用できる環境が形成されている点

### 3. 多様な背景を持つ青少年を受け入れる包摂的な施設運営がなされている点

青少年の「やりたい」という気持ちを尊重する運営方針が、利用者の主体性向上につながっており、規則で縛るのではなく、対話を重視した関係づくりが印象的でした。多様な背景を持つ青少年が安心して集える環境整備が重要であると再認識しました。本視察で得られた知見を踏まえ、本市の今後の取り組みにも参考としたい点がありました。

青少年の主体性を重視した居場所づくりの推進や、伴走型支援の導入。地域資源を活用した多様な活動機会の提供を推進していくこと。今後建設予定の施設等の内容や運営に活用の可能性を研究され、居場所のあり方を検討していくべきだと考えます。文京区青少年プラザ b-lab は、青少年の自主性を尊重しつつ多様な活動機会を提供する先進的な施設であり、本市における青少年施策の推進に資する有益な示唆を得ることができました。

2. 国分寺市重層的支援体制整備事業は、国分寺市の取組は、「制度の隙間」を埋める実践として非常に有効であると感じた。特に以下の点が印象的でした。

1. 「断らない相談」という理念の徹底
2. 組織横断的な連携体制の構築
3. 本人主体の支援を重視したアプローチ

一方で、支援の高度化に伴い、職員の専門性やコーディネート能力の向上が不可欠であり、人材育成が重要な課題であると考えられます。

本視察を踏まえ、本市においては以下の点を検討する必要があると考えます。

1. 分野別支援から包括的支援への転換
2. 庁内外の連携強化と情報共有の仕組みづくり
3. 相談支援を担う人材の育成
4. 地域資源の発掘と活用

特に「相談を断らない体制」の構築は、住民の安心感の向上につながる重要な要素であります。福祉に関わる「総合相談窓口」を設置して啓発を図り相談しやすい環境整備に取り組まれており、本市に必要と考えます。重層的支援体制整備事業は、複雑化する地域課題に対応するための有効な手法であり、今後の地域福祉政策の中核を担うものであります。

国分寺市では市長の決断からトップダウンの取り組みにより全庁内の共通認識を図り各所管との連携が図られ取り組みにつながったとのことでした。先進事例を参考に、本市においても実情に応じた体制整備を進めていく必要があると実感致しました。



## 会派内行程表

< 研修、調査研究、要請・陳情 用 >

会派名 「公明党多賀城市議団」

■日 程： 令和 8年 3月 23日(月)～24日(火)

日 程	行 程
<1日目> 3月23日(月)	多賀城駅(8:23発)仙石線→(8:44着)仙台駅(9:22発)はやぶさ106号→(10:50着)上野駅 (11:10発)徒歩→(11:20着)湯島昼食(13:10発)徒歩→(13:20着)文京区青少年プラザ (bーラボ)(視察13:30～15:00終了)→現地(15:10発)タクシー→御茶ノ水駅(15:37発)中央線 中央特快→(16:14着)立川駅→徒歩→(16:20着)ホテル
	■宿泊 ・ホテルリブマックス立川駅前 東京都立川市錦町1-1-17 TEL042-529-9910
	■調査事項 ・文京区青少年プラザ(bーラボ)現地視察
<2日目> 3月24日(火)	ホテル(8:50発)徒歩→立川駅(9:05発)中央線中央快速→(9:10着)西国分寺駅北口→タクシー →(9:20着)国分寺市役所(視察09:30～11:00終了)→市内食事→西国分寺駅(12:59発)中央 線中央快速→(13:41着)東京駅(14:20発)はやぶさ27号→(15:51着)仙台駅(16:04発)仙石 線→(16:26着)多賀城駅
	■調査事項 ・国分寺市重層的支援体制整備事業